

40歳～74歳の被扶養者・任意継続組合員の方へ

健診は一時、病気は一生。

※短期人間ドック又は事業主健診を受けない短期組合員も対象です。

あなたも
受けなきゃ！

特定健診

ご存じですか？日本人の死因の多くは、心臓病、脳卒中などの生活習慣病です。生活習慣病は、自覚症状がほとんどないまま静かに進行していくため、気づいたときにはすでに重症化していたなんてことも……。

そうならないために、特定健診を受けて体の状態を知り、日頃の生活習慣を見直すことが大切です。



生活習慣病が重症化すると 恐ろしい病気が待っています

- 心筋梗塞 ▶ 心臓の冠動脈が詰まり、ペースメーカーなどが必要になることも！
- 脳出血 ▶ 脳の血管が破れ、半身不随などの後遺症の可能性が！
- 糖尿病腎症 ▶ 1回4時間、週3回程度の人工透析がずっと必要になることも！



特定健診は、メタボリックシンドローム（以下メタボ）や生活習慣病の発症リスクを調べ、健康づくりに役立つ年に1度のチャンスです！

特定健診 Q&A

Q

具合が悪くなったら、医療機関を受診すればいいでしょ？

A

生活習慣病は、自覚症状なく進行するため、症状が出てからでは手遅れの場合があります。毎年の健診で体の状態をチェックすることが大切です。

Q

忙しくて、受ける時間がないんだけど……

A

病気の進行に気づかず、通院や入院が必要になった場合、健診や保健指導の何倍もの時間がかかります。健診にかかるのはほんの少しの時間です。

Q

健康には自信があります。毎年受けなくても大丈夫？

A

今は元気でも、異常値に近づいているかもしれません。年に1度の健診を通して、ちょっとした体の変化に気づくことができれば、早めの対処が可能です。

Q

やせているから受けなくてもいい？

A

特定健診はメタボに着目した健診ですが、体型にかかわらず、さまざまな病気の芽を見つけられます。体の状態の変化を知るためにも、必ず受けましょう。

Q

特定健診は家族も受けるの？

A

40歳から74歳の、全ての方が対象です。ご家族も対象となっています。



対象者には特定健康診査受診券と併せてご案内をお送りしておりますのでご確認ください。

がん検診も忘れずに！

日本では、2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっています。しかし、がん治療の進歩により、早期発見・早期治療できれば生存率を高めることができる病気になっています。

共済組合では、がん検診のうち、大腸がん、胃がん、子宮がん、乳がんに係る助成を行っておりますので、病院や住民健診でがん検診を受診されたら、共済組合へ助成金を請求してください。

※受けられるがん検診の種類、費用、対象年齢、受診間隔、検査項目は、実施主体により異なります。詳しくはがん検診の実施機関にお尋ねください。

主ながん検診

胃がん

肺がん

大腸がん

子宮がん

乳がん